



クリロンワークショップ便り第50号に寄せて

クリロンワークショップ(KWS)はクリロン化成(株)の社外交流窓口としてオフィスの一角で活動してきましたが、社外に拠点を置くにあたりその活動内容を伝えたいということで2009年12月にクリロンワークショップ便りの第1号を発信しました。

画家の蔡國華氏に表紙絵を提供いただき、私が記事を書いて会長にアドバイスを、友人に校閲をしてもらい、デザイナーさんがレイアウトをして、第1号が完成しました。

「第1号というと第2号、第3号も作らなくちゃならないけれど大丈夫？」と心配される中、「第50号まで頑張れたら嬉しい！」と思いながらとにかくスタート！
発送時には表紙絵が見えるように透明の封筒を使い、見た目の美しさも大切にしました。

当初はクリロンワークショップの活動紹介記事が殆どでしたが、やがてクリロンの紹介も加わり、クリロンワークショップのメンバーも増えて記事やデザインにも多くの社員やメンバーが関わるようになりました。定期的に人材部とクリロンワークショップとで打ち合わせを持つことで内容も充実かつ、スムーズに発行できるようになり、このたび目標の第50号に辿り着くことができました。

そんな今、様々な課題をかかえ、「この先はどうして行くのか？」との議論はつきませんが、バトンをつなぎ、これからは若い次世代の思いを載せて、新しい形に生まれ変わることになるでしょう。

50号までお付き合いいただいた皆さまに感謝を込めて・・・

これからもクリロンワークショップを見守ってくださいますように、
どうぞよろしくお願いいたします。

クリロンワークショップ会長
栗原 明理



共に創ってくださった方々からのメッセージ

50回連続発行できたこと本当に素晴らしいことと思います。
持続と創新、これはクリロン化成の理念を反映しているようなものです。クリロンワークショップは会社の社外交流の役割でありながらそれをこえて様々な専門分野の人が集まりそれぞれの特技を生かし表現の場を提供しています。社員と会社関係の皆さんはもちろんのことですが展覧会、発表会、イベントなどを通してクリロンワークショップ便りを手にした、たくさんの方々にクリロン化成の活動や経営理念、商品開発の努力など幅広く発信する役割をしています。
私の絵をクリロンワークショップ便りの表紙に使われることはとても誇りに思っております。

これから益々のご発展を期待しております。

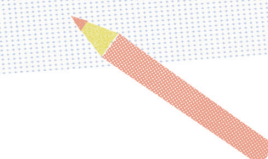
蔡國華(画家)



クリロンワークショップ便りは名前の通り、当初はワークショップの紹介や活動報告が中心でした。その後、徐々にクリロン化成の記事が増え、50号を迎える現在では両者がほぼ等分に誌面を占め、独特の調和をみせています。そんなクリロンワークショップ便りに校閲としてかかわってきて、いちばん興味深いと感じたのが、クリロン化成で働く方々からのものでした。文章的には拙い部分もあったりしますが、その飾り気のなさは真すぐに現場の熱量を伝えてくれます。校閲が安易に手直しをしてはいけなく、接する度に自省させられました。

クリロンワークショップ便り第50号をひとつのゴールとし、これからどんな新しい驚きに出会えるか期待を込めて待っています。

田近 真理子(校閲者)



編集後記

私がクリロンワークショップ便りを担当するようになったのは前号の49号からです。しかしそれ以前からMy空間の子どものイベントなどの記事や留学先のスロヴァキアでの体験を綴ったコラムを掲載させていただいており、SNSなどとはまた違った発信の場を与えられたことに喜びを感じながら書いていました。
今回はこれまでの歩みをすごろくのようなマップで表現し、イラストでも大きく関わらせていただいたことが嬉しいことでした。

◀首都・ブラチスラヴァの夕暮れ

小西 由夏

デザイン・イラスト：小西 由夏(クリロンワークショップ)

kurilon クリロン化成株式会社
kurilon.co.jp

KURILON Work Space
心が豊かであるために・・・
https://kurilon-ws.com/

画空間 Art Space
a-kukan.com

My空間 Studio
a-kukan.com/mykukan

伊久美 クリロンワークショップ
kurilon-ws.com/ikumi

Kurilon Workshop News

クリロンワークショップ便り
No.50 2025年 11月

No.
50
記念号



クリンワークショップ便りの あゆみ

これまでのクリンワークショップ便りに掲載した記事内容や、クリン化咸での出来事などを振り返ります。

第1号創刊 2009.12発行

最初の記事はクリン創業50周年（2010年）の記念イベント「蔡國華作品展 in 軽井沢」とヒューマン・フロンティア・フォーラムについてでした。

第3号 2010.07発行 創業50周年 感謝の会

「包装の未来を考える」をテーマに大阪・東京で開催されました。

第5号 2011.06発行 被災地支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、医薬品などの物資に加えクリン製品や、子どもたちにアートファイルなどを届けました。

2011.09 クリンワークショップ 画空間オープン

「芸術と企業」をテーマとした空間が東京・銀座にオープン。芸術作品の展示のみならず、絵画教室やオリジナルグッズの制作・販売なども行っています。

第11号 2013.07発行 第12回 新製品説明会

画空間も蔡國華氏によるアートの展示で参加しました。

2014.12 大阪本社東館 工事完成

2009年の創刊以来20号までデザインを担当いたしました。毎号社内では話題の選定を行い、読んでくださる方々へクリンの文化が伝わればいいなという思いでデザインしてきました。表紙を飾る蔡さんの絵に癒され、専門の校閲の方により新しい知識にも出会いながら編集の楽しさを知りました。

近 ゆうみ（クリンワークショップ）

クリンワークショップ便り第1号創刊から入社と共に関わらせて頂きました。「製品、サービス、企業文化で、社会に貢献する」という経営理念を実現するために、交流会やイベントなど様々な活動に試行錯誤しながら取り組んできました。活動に参加された方から「他にはない交流の場や、繋がりになっていること」を聞き、主催者だけでなく参加者自身も前向きに、真剣に取り組み、一緒に作り上げていくことこそが大切であると実感しました。

人材部担当者

第23号 2017.02発行 画空間カレンダー

第68回全国カレンダー展 全国中小企業団体中央会 会長賞受賞。

第21・22号 合併号 2016.09発行

クリンワークショップ便りが新デザインでリニューアルしました。

第20号 2016.03発行 蔡國華展覧会

年末には、『音楽礼賛』年始は『始動』というテーマで展示を行いました。

第41号 2021.10発行 画空間10周年

アート活動のみならず、クリン製品のデザインや人材部との協働など活動の幅が広がりました。

第43号 2022.06発行 関西財界セミナー 輝く女性賞受賞

当社の「人の力を引き出す」人材マネジメント制度への取り組みが評価されました。

2022.08 クリンワークショップ 伊久美オープン

長野県諏訪市で長年にわたり地域の方々から愛された『割烹伊久美』が新たな交流・創作の場として生まれ変わりました。

2023.05 栗原和志 代表取締役社長 に就任

私たちが担当を始めた2019年はクリンワークショップ便りとして変化が多かった時期でした。当初はメールベースでレイアウトや記事の内容を考えていましたが、コロナ禍でリモートでの会議が普及したこともあり、人材部とクリンワークショップでリモート会議を実施するようになりました。思いがけなく活発化した会議はまさに「文殊の知恵」となり、QRコードを利用した動画での展覧会配信や人にフォーカスしたインタビューと今までになかった新しい取り組みを生み出しました。

人材部担当者
加藤 麻依子（クリンワークショップ）

第28号 2018.05発行 My空間ミモザまつり

お母さんにミモザの花を贈り、感謝を伝えるイタリヤのお祭りをMy空間でも毎年行っています。

第34号 2019.11発行 北海道おたる潮まつり

第51回～53回「潮ねりこみコンテスト」に満ち潮隊として参加し3年連続優勝しました。

第36号 2020.05発行 栗原 明理展覧会

油彩の静物や風景画が画空間を彩り、めぐる季節シリーズの3巻目も同時出版されました。

第38号 2020.11発行 資格検定試験を オンライン化

採点の効率化や正答率などの数値管理が可能になり、今では全ての資格試験で導入されています。

第49号 2025.03発行 栗原 清一会長が 旭日単光章を受章

これまで開催の拠点は軽井沢でしたが、上諏訪の伊久美に移しました。

クリンワークショップ便りの これから

いつもクリンワークショップ便りをご覧頂きありがとうございます。お陰様でこの16年間、クリンワークショップの活動をお伝えしながら、栗原明理代表(現会長)の目標であった第50号を迎える事ができました。

節目となる本号を機に、初心に戻り今後のあり方について考えました。

この間、世の中も大きく変わり、紙媒体がどんどん姿を消し、インターネット上で必要な情報が即座に入手できる時代になりました。さらにAIの急速な発展で文章やイラスト、絵画までも自由に手に入るようになっていきます。しかも、AIだからどれも似たような物ができるのかと思えば、それはそれぞれ、それなりに個性的に仕上げてくれる。さあ、どうしよう？もう、そこまでお任せする事になってしまうと、私達は何を大切に温め育てていけばいいのでしょうか・・・？模索する中で、私達はクリンワークショップそのものに向き合う様になっていきました。そしてある時「クリンをブランドとしよう！私達がブランドですからと胸を張って言い切れるブランドに」と閃いたのです。

クリン化咸は常に生活に身近なフィルムの研究開発、製造を通じて社会に貢献してきましたが、その運営は経営陣の独自性に富んだ経営方針で成り立っています。その象徴的な取組みの1つがクリンワークショップです。かれこれ30年近くもの歴史を持つクリン化咸の社外交流窓口で、なかなか理解して頂けない活動も多いのが現状ですが、クリンワークショップこそがクリンブランドの一翼を担う存在であると確信するに至りました。

クリンワークショップ便りは今回の第50号をもって完結とし、今後はクリンブランドの多彩な活動をそれぞれにフォーカスして紹介していこうと考えております。これまでクリンワークショップ便りをご愛読頂いた皆様とまた新しい形で繋がりを築いていけたらと願っています。これからもどうぞ宜しくお願いします。

クリンワークショップ代表 斎藤 牧子

2025.03 大阪本社 新社屋完成

大阪新社屋エントランス